



## 将棋のことを一瞬でも忘れられる ホッとできる場所が多いのが魅力です

伊藤沙恵さん  
棋士

将棋を始めたのは5歳の頃。兄の相手をするうちに指し方を覚えて、子ども向けの将棋スクールに通うようになりました。10歳のとき日本将棋連盟の奨励会に入ったのですが、この年齢での入会は女性では最年少だったそうです。

生まれも育ちも武蔵野市内で、通っていた亜細亜大学も市内だったので、遊ぶのは大抵吉祥寺でした。大学の友だちは私を棋士としてではなく普通の友人として接してくれたのでありがたかったですね。尊敬する棋士の木村一基九段が亜細亜大学のご出身で「将棋界以外に自分の居場所があるのは大きかった」とおっしゃっていて、私も行ってみたいと思ったのが入学のきっかけでした。

武蔵野市は、都会過ぎず田舎過ぎず、私にとって「ほどよい」まち。対局の前になると頭の中に将棋盤が現れて、将棋のことが頭から離れなくなることも多いのですが、そんな

ときは自宅の近くや公園を歩くだけでリフレッシュできます。身近な場所に一息つける場所が多いのはうれしいですね。

将棋には対戦相手がありますが、結局は自分自身との闘いです。たとえ負けても、やり切ったと思える対局を目指したい。そのためには皆さんの応援が力になります。応援されることで自分の実力以上の力が発揮できる瞬間がたくさんあるんです。

2022年は、9回目の挑戦で念願だった「女流名人」のタイトルを獲得できた年でした。大きな達成感を味わうとともに、常に上を目指さなければと気を引き締めています。

大学で経営学を学んだこともあって、実はお店の経営にも興味があります。吉祥寺に誰もが気軽に立ち寄って将棋が指せる「将棋カフェ」ができたらいいな、なんて夢想しています。考えるのはタダですからね(笑)。



**伊藤沙恵 (いとう・さえ)**  
1993年生まれ。武蔵野市出身。10歳で小学生将棋名人戦に出場、決勝大会に進出。その年、日本将棋連盟奨励会に入会し、2014年に退会してプロ棋士に。屋敷伸之九段門下。2022年2月、第48期女流名人戦において9回目の挑戦を経て悲願の女流名人のタイトルを獲得した。この間、亜細亜大学経営学部に一芸入試枠で入学して会計学を学ぶ。「将棋界で1、2を争うくらいのディズニー好き」を自認している。